

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00426

研究課題名（和文）総合芸術におけるジャポニズムの表象の変容と異分野間の影響関係に関する比較芸術研究

研究課題名（英文）Study of Comparative Arts on the Transformation of Japonisme in Integrated Arts and Influences between Different Fields

研究代表者

日高 真帆（Hidaka, Maho）

京都女子大学・文学部・教授

研究者番号：90407619

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、総合芸術におけるジャポニズムの表象の変容と異分野間の影響関係の諸側面を究明した。その結果、19世紀末から現代に至る迄、ジャポニズムの影響力が多様なジャンルや芸術様式を超えて波及し続け、舞台芸術や映画に於いて多様な表象や変貌を経て来た様を具体的に明らかにすることができた。研究成果は文学・文化研究に関する共著、国際学会での研究発表、公開講座、書評、展覧会図録の解説記事等を通して公表している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ジャポニズムを切り口として比較研究することにより、演劇・オペラ・映画等の総合芸術へのジャポニズムの影響力や、世紀末芸術と現代文化の繋がりについて、具体的な作品分析を通して明らかにすることができた。その研究成果については、共著や国際学会での研究発表、公開講座、書評、展覧会の企画、展覧会図録の解説記事等の形で公表することで、学界に留まらず広く社会に還元することができた。

研究成果の概要（英文）：This research investigated transformations of the representations of Japonisme in integrated arts, and facets of the influences between various fields. Consequently, the study showed the impact of Japonisme to be something that has continued to reach across different art forms and genres in diverse representations and transfigurations across performing arts and cinema spanning across the fin de siècle until today. The conclusions reached have been widely publicised, appearing in an edited volume on literature and culture studies, paper presentations at international conferences, a public lecture, a book review, and commentaries for an illustrated exhibition catalogue, among others.

研究分野：比較芸術、比較文化、比較文学、舞台芸術、演劇学、翻案研究

キーワード：比較芸術 ジャポニズム ピアズリー ワイルド サロメ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の着想は、主に申請者の過去12年間の比較研究の成果を踏まえて得たものである。この間計8回研究発表を行い、国内外で英文単著・共著を出版し、海外学術誌に論文2本が掲載される等積極的に成果発表を行った。その結果、総合芸術とジャポニズムの関連性を捉えた研究や世紀末芸術と現代を繋ぐ研究の必要性を認識し、世紀末前後と現代双方の総合芸術におけるジャポニズムの表象を比較考察するという研究案に至った。

### 2. 研究の目的

本研究「総合芸術におけるジャポニズムの表象の変容と異分野間の影響関係に関する比較芸術研究」は、学際的比較芸術研究を通して、演劇・オペラ・映画等の総合芸術において、ジャポニズムがどのように表象され、その表象が異なる芸術様式・文化圏・時代を越える際にどのような変容を遂げてきたのか、また、日欧の芸術作品や、ジャポニズムを取り入れた異なる芸術分野の間にどのような相互影響関係が認められるのかを追究するものである。

### 3. 研究の方法

本研究は国際的視野に立つ学際的比較研究であるため、研究方法としては、分野、国境、時代を越えた研究を行い、世紀末芸術及びそれ以降の日欧の文学と視覚芸術、そして舞台芸術を関連づける比較芸術研究を進める。具体的には、ジャポニズムに関連する世紀末芸術及びそれ以降の総合芸術作品を中心とする芸術作品を対象として一次資料・二次資料の収集・分析を行うため、大学図書館・国公立図書館・美術館・劇場附属資料館・フィルムアーカイブ・関連作家や芸術家縁の資料館等に於いて調査研究・資料収集を進め、資料の分類・分析を行う。また、国内外の関連学会にも積極的に参加し、最新の研究動向を確認しながら調査・分析結果を纏める。

### 4. 研究成果

本研究では、総合芸術におけるジャポニズムの表象の変容と異分野間の影響関係の諸側面を究明した。その結果、19世紀末から現代に至る迄、ジャポニズムの影響力が多様なジャンルや芸術様式を超えて波及し続け、舞台芸術や映画に於いて多様な表象や変貌を経て来た様を具体的に明らかにすることができた。研究成果は文学・文化研究に関する共著、国際学会での研究発表、公開講座、書評、展覧会の企画、展覧会図録の解説記事等を通して公表している。

具体的には、2020年度は、京都女子大学附属図書館館長より依頼を受け、本研究に関連して京都女子大学創基100周年記念特別企画展観「京女100年の至宝」（於 錦華殿、2020年11月-12月）に於ける展示作品の選定及び図録解説を依頼されて担当した。担当箇所は、解説記事「9 “Birth from the Calf of the Leg” ふくらはぎからの誕生」(P12) 及び「10 Salome : A Tragedy in One Act サロメー一幕の悲劇」(P13)、コラム「京女のなかのピアズリー」(P14)であった。2021年3月から4月に掛けて京都女子大学附属図書館にて開催された展示会に於ける展示作品、オーブリー・ピアズリー画「大型クリスマスカード」の解説記事も執筆した。

2021年度は、8月にオンラインで開催された国際アジア学会、“The 12th International Convention of Asia Scholars - Crafting a Global Future”にて英語による単独研究発表を

行った。題目は “Crafting a Global Future of Theatre: A Comparative Study of New Directions in Theatre Practices in Japan and in the West” であった。質疑応答も充実し、海外の研究者と議論を発展させた。更に、京都女子大学附属図書館館長より新たな依頼を受け、京都女子大学附属図書館貴重書展示コーナー展覧会「ピアズリーと『サロメ』」の企画、展示作品の選定及び解説の執筆を担当した。同展覧会は、2021年11月から2022年3月迄開催され、研究成果を生かして京都女子大学の貴重資料を解説と共に紹介することができた。

2022年度は、美術館での調査を含め、19世紀末から20世紀に掛けての芸術家の作品研究を進めた。また、日本比較文学会より、クリストファー・バルミ著『演劇の公共圏』（藤岡阿由未訳、春風社、2022年）の書評を依頼され、新型コロナウイルス感染症の演劇界への影響と新たな表現様式の導入について、従来型の演劇実践の枠組みを超えた実践例と共に紹介して論じ、日本比較文学会の学会誌である『比較文学』第65号（2023年3月刊行）に「書評 クリストファー・バルミ著『演劇の公共圏』」として掲載された（pp. 103-106、依頼原稿）。2023年度には、京都女子大学2023年度後期英文学科公開講座にて講師を務めて講演「ミュージカルから学ばれた英語—上演指導による実践的英語教育の充実—」（依頼講演）を行い、比較芸術研究の研究成果を反映させた。

2024年度には、国際アイルランド文学協会の大会である IASIL 2024 にて英語による単独研究発表（Reciprocal Influences between Irish Literature and the Japanese Arts: Centring on Oscar Wilde, Aubrey Beardsley, Junichiro Tanizaki and Yukio Mishima）を行うことが決定している（受理済）。また、単著論文「情動と芸術生成—オスカー・ワイルドと谷崎潤一郎を中心とした比較芸術研究」が共著『情動の力—文学／文化批評の可能性』（武田悠一・武田美保子編著、小鳥遊書房、仮題、依頼原稿入稿済）に掲載される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 日高真帆
2. 発表標題 Crafting a Global Future of Theatre
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 日高真帆
2. 発表標題 Reciprocal Influences between Irish Literature and the Japanese Arts: Centring on Oscar Wilde, Aubrey Beardsley, Junichiro Tanizaki and Yukio Mishima
3. 学会等名 IASIL 2024 (International Association for the Study of Irish Literatures) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 武田美保子、武田悠一編著、大橋洋一、梶原克教、鶴殿えりか、日高真帆、亀田真澄著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 情動の力 文学 / 文化批評の可能性	

〔産業財産権〕

〔その他〕

京都女子大学ホームページ  
<https://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/kywuhp/KgApp/k03/resid/S001680>  
 「解説」  
 京都女子大学創基100周年記念特別企画展観「京女100年の至宝」図録『京都女子大学創基100周年記念 特別企画展観 京女100年の至宝』2020年11月、pp.12-14、依頼原稿。  
 解説記事「9 “Birth from the Calf of the Leg” ふくらはぎからの誕生」(P12)  
 解説記事「10 Salome : A Tragedy in One Act サロメ - 一幕の悲劇」(P13)  
 コラム「京女のなかのピアズリー」(P14)  
 京都女子大学附属図書館展覧会「ピアズリーと『サロメ』」企画・解説、2021年11月-2022年3月、依頼原稿。  
 「書評」  
 「書評」クリストファー・バルミ著『演劇の公共圏』、『比較文学』第65号、2023年3月、pp.103-106、依頼原稿。  
 「講演」  
 京都女子大学2023年度後期英文学科公開講座「ミュージカルから学ぶ生きた英語 上演指導による実践的英語教育の充実」、2023年11月、於 京都女子大学、依頼講演。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------